

志賀理江子 ヒューマン・スプリング

Shiga Lieko: Human Spring

2019年3月5日(火) - 5月6日(月・振休)



〈ヒューマン・スプリング〉より《人間の春・彼には見える》 2019年 作家蔵 ©Lieko Shiga

展覧会概要

東京都写真美術館では、独自のフィールドワークを元に制作する作品群で、日本国内のみならず、国際的な注目を集める写真家・志賀理江子の新作個展「ヒューマン・スプリング」を開催します。

2006年、作家は展覧会参加のため初めて東北を訪れました。その後2008年から宮城県に移住し、その地に暮らす人々と出会いながら作品を制作する生活のなかで、長く厳しい冬を打ち破るような東北の春に惹かれていきます。変わりゆく季節から溢れ出る強烈な生のエネルギーが、同時に死を抱え込んでいることに共感した作家は、人間が絶えず多様なイメージを求め続ける理由の源をそこに見出し、深く追求していくようになりました。それが人間社会とどのように関わり、繋がっているのかを知ろうとしていたのです。そして2011年3月、東日本大震災に遭い、多くの人々の命が一瞬で奪われるという壮絶な光景を目の当たりにした作家の心に、この体験が深く刻み込まれました。時空の裂け目に飛び込み、何かを探るような志賀理江子の写真表現は、自らの衝動と重なるものといえるでしょう。

本展覧会は、現代を生きる私たちの心の奥に潜む衝動や本能に焦点をあて、日本各地のさまざまな年代、職業の人々とともに協働し制作した新作を、等身大を超えるスケールの写真インスタレーションで構成します。平成という時代が終わる大きな節目の春に、精神の極限を見つめ、現代の社会と個人、自然と人類の関わりを編みなおし、生命にそなわる本来の力を感じるこのことのできる場となれば幸いです。

本展のみどころ

人間とは、人間にとっての春とは何か。

「いつかやらなければと思っていた大きな題材がある。会期は絶対に春で」という作家の第一声から本展の企画準備が始まりました。2008年より宮城県に移住した志賀は、長く厳しい冬を唐突に打ち破るような、東北の春の息吹に、単なる季節の移り変わり以上の特別な意味を感じていました。作家は2011年3月の東日本大震災で、生死を分ける壮絶な体験を目の当たりにしました。そして、震災とその後の生活のなかで、「人間とは何なのか」という大きな題材と向き合うため、「春」という季節を手がかりに精神医学に関する書物や関係者との対話から考察を深めていきました。

志賀が向き合うテーマは、「人間と春」というものを見つめ続けることから始まり、肉体と精神、自己と他者、社会秩序と現代人、さらには人間と自然の関係性への洞察を深めながら、果てしない宇宙の広がりの中で人間(ヒューマン)そのものを捉え直そうとするものです。本展は平成が終わる大きな節目となる今春、構想から4年の歳月を経て、満を持して開催する運びとなりました。

志賀は〈ヒューマン・スプリング〉と名付けられたシリーズを通して、人間とは、人間にとっての春が何を意味するのかを私たちに示します。

国際的な注目を集める、志賀理江子の2年ぶりの新作個展

本展は2年ぶりの全新作による個展です。志賀はこれまで、地域の人々との関係を深め、その土地の人々と一緒に作品を制作してきました。今回の新作シリーズ〈ヒューマン・スプリング〉は、さらにその深淵をひらくものとなっています。例えば、語り継がれる民話に身を委ねることで、遠い時空からの物語への視線を鋭敏にし、他者の経験を受け止める心身を鍛えていきました。そして本作の制作に携わる何百人もの存在に寄り添い、それぞれの物語を受け止めていきます。作家は先人たちの死や、人々の言葉にできなかった思いを拾い集め、その中から削り出すようにイメージを作り出しているのです。

本展では、約100点の新作を初公開します。時には残酷にも不気味にも、暴力的とも感じられるようなイメージは、身体の中に潜在する自然、そして生と死の境界を思い起こすことでしょう。

超大型プリントのインスタレーションを体感

作家にとって写真を制作することは生きることそのものです。志賀は「生々しいプリントの質感が私にとっての写真だ」と言います。本展は、志賀が捉えたイメージが全面に配された、巨大壁によるインスタレーションで構成します。来場者は、等身大を越えるスケールの写真の壁が立ち並ぶ空間を縫うように歩きながら、作家が視覚化した物語を体感していきます。プリントはすべて、現在では制作が難しい超大型の発色現像方式印画(カラープリント)です。作品の存在感と溢れ出る気迫を、ぜひ会場で体感してください。

※志賀理江子本人による撮影の本展会場写真をご用意しております。掲載をご希望の際は広報担当までご連絡ください。

〈ヒューマン・スプリング〉より
《人間の春・あの人は私が私だと思っている》
2019年 作家蔵 ©Lieko Shiga





〈ヒューマン・スプリング〉より
《人間の春・永遠の現在》 2019年
作家蔵 ©Lieko Shiga

展覧会図録「志賀理江子 ヒューマン・スプリング」より

毎年春、桜が芽吹く数日前に、全くの別人になる人がいた。

頬は赤く高揚し、夜も眠らず辺りを歩き続け、目が合う誰しにも話しかけ、よく笑い、高鳴る胸の音がこちらにも聞こえてくるようだった。そして、対面する人の奥から、驚くような深い感情を引き出した。彼は、春そのものだった。

志賀理江子「人間の春」より一部抜粋

志賀は写真制作に携わるようになってから、本シリーズ〈ヒューマン・スプリング〉制作の契機となった「毎年春、桜が芽吹く数日前に、全くの別人になる人」（前出）と出会っている。厳しく暗い冬が明けて春が来るたびに生命が弾けるような季節の鮮やかさのなかで、作家は「春そのもの」の彼を思い出し、やがて人間も自然の一部なのだから、春に対するその人物の反応こそ当然なのではないかと思いはじめ。

...

震災とその後の生活のなかで多くの人の死を体験した作家は、死の裏返しとしていまの自分が存在することを意識せざるを得なかった。そして自らが生きていた社会、世界とは何なのか、そのなかで生きている自分たちの身体に日常を奪っていった残酷な自然と同じものを抱えているのだとしたら、人間とは何なのか。作家は春という季節に「彼」が開けた風穴を、人間を捉え直すための糸口とした。

...

死に対する恐れ、得体のしれないものを知りたくなる欲望、生物としての本能、他者との関わりのなかで湧き起こる言葉にならない感情、そういった普段は影を潜めているが私たちが確かに持っている情動を視覚化しようとする試み、それらを〈ヒューマン・スプリング—人間の春〉と名付けた。

丹羽晴美（東京都写真美術館 学芸員）

「ヒューマン・スプリング—志賀理江子が身体に繋ぐ人間の物語」より一部抜粋

作家プロフィール

志賀理江子 Shiga Lieko

1980年 愛知県生まれ

2004年 ロンドン芸術大学チェルシー・カレッジ・オブ・アート・アンド・デザイン
卒業、ファインアート、ニューメディア専攻

2007-08年 文化庁新進芸術家海外研修 ロンドン

現在 宮城県在住

主な個展

2001 「浮遊する出来事」 グラフギャラリー、大阪 3月30日-4月10日

2005 「リリー」 グラフメディア・ジエム、大阪 5月21日-6月26日

2006 「リリー」 ニューク・ギャラリー、パリ 12月17日-2007年1月13日

2011 「カナリア門 志賀理江子写真展」 三菱地所アルティアム、福岡 2月19日-3月11日
「カナリア門」 ギャラリー・プリスカ・パスカー、ケルン 3月24日-7月30日

2012-13 「志賀理江子 螺旋海岸」 せんだいメディアテーク6階 ギャラリー4200、仙台
2012年11月7日-2013年1月14日

2017 「ブラインドデート」 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、香川 7月10日-9月3日

主なグループ展

2004 「ジャック」 ビデオ・インスタレーション: 志賀理江子、藤乃家舞、山口情報芸術センター、山口

2005 「Rapt! 20人の日本の現代作家」 セブンス・ギャラリー、メルボルン 10月10日-11月4日
「Re:search オーストラリアと日本のアート・コラボレーション」 せんだいメディアテーク、仙台
11月26日-12月25日

2008 「第33回木村伊兵衛写真賞作品展 CANARY/Lily」 コニカミノルタプラザ、東京 4月19日-28日
「日本の新進作家展 vol.7 オン・ユア・ボディ」 東京都写真美術館、東京 10月18日-12月7日

2008-09 「トレース・エレメンツ― 日豪の写真メディアに関する精神と記憶」 東京オペラシティアート
ギャラリー、東京 2008年7月19日-10月13日

2010 「六本木クロッシング2010展:芸術は可能か?—明日に挑む日本のアート—」 森美術館、東京
3月20日-7月4日

「ニューヨーク・フォト・フェスティバル2010 “隠された書物、隠された物語”」 セイント・
アンズ・ウェアハウス、ニューヨーク 5月12日-16日

「インターナショナル・フォトブック・フェスティバル」 ドクメンタ・ホール、カッセル
5月13日-16日

「あいちトリエンナーレ2010 都市の祝祭」 愛知芸術文化センター他、名古屋 8月21日-10月31日

2012 「旅のはざままで私はここにいます」 高松市美術館、高松 6月23日-9月2日

「行者一宮津大輔:一位工薪族的當代藝術收藏展」 台北當代藝術館、台湾 7月9日-9月4日

2013 「アーティスト・ファイル2013-現代の作家たち」 国立新美術館、東京 1月23日-4月1日

「内蔵感覚-遠くテ近イ生ノ声」 金沢21世紀美術館、石川 4月27日-9月1日

「あいちトリエンナーレ2013-揺れる大地」 岡崎シビコ、愛知 8月10日-10月27日

- 2014 「スリーピング・ビューティー」 広島市現代美術館、広島 5月17日-7月21日
- 2015 「ニューフォトグラフィ2015」 ニューヨーク近代美術館、ニューヨーク
「In the Wake; Japanese Photographers Respond to 3/11」 ボストン現代美術館、他（巡回）、
アメリカ
- 2018 「ビルディングロマンス 現代譚を紡ぐ」 豊田市美術館、豊田 1月20日-4月8日

主な受賞歴

- 2005 「MiO写真奨励賞2005」 審査員特別賞（選考・笠原美智子）
- 2008 「第33回木村伊兵衛写真賞」（『Lilly』、『CANARY』による）
- 2009 「ICPインフィニティアワード」 新人賞
- 2012 「第28回写真の町東川賞」 新人作家賞
- 2013 「2013フォトシティさがみはら」 さがみはら写真賞
「第24回タカシマヤ美術賞」
- 2017 「第2回プリピクテジャパン・アワード」



上 〈ヒューマン・スプリング〉より《人間の春・カタトニア》
2019年 作家蔵 ©Lieko Shiga

下 〈ヒューマン・スプリング〉より《人間の春・昨日と変わらない今日 今日と変わらない明日》 2019年 作家蔵
©Lieko Shiga

展覧会図録

「志賀理江子 ヒューマン・スプリング」 価格：2,808円（税込）
志賀理江子によるテキストのほか、出品作品図版、出品リスト、作家略歴等を含む全159頁。
全編和英表記。執筆：志賀理江子、丹羽晴美(当館学芸員)
* 当館2階ミュージアム・ショップにて販売

関連イベント

アーティストトーク

日時：2019年3月10日（日）14:00-16:00（13:30 開場）

会場：1階ホール、定員：190名

*当日10時より1階総合受付にて整理券を配布します。番号順入場、自由席。

*整理券はおひとり様につき1枚までの配布とさせていただきます。

ワークショップ「ひとつの石」

参加者が拾った「ひとつの石」を持ち寄っていただき、作家と共にその石について語り合うワークショップです。

日時：2019年3月21日（木・祝）14:30-17:30

会場：1階スタジオ、定員：20名、事前申込み制

てつがくカフェ「ヒューマン・スプリング」

てつがくカフェは、わたしたちが通常当たり前だと思っている事柄からいったん身を引き離し、「そもそもそれって何なのか」といった問いを投げかけ、「対話」を通して自分自身の考えを遅くすることの難しさや楽しさを体験するものです。本展覧会では、ふたつのテーマについて参加者の皆さまと共に考えます。

ファシリテータ：西村高宏（てつがくカフェ@せんだい）

ファシリテーション・グラフィック：近田真美子（てつがくカフェ@せんだい）

第1回 2019年4月13日（土）展覧会から「ヒューマン」を考える

第2回 2019年4月27日（土）展覧会から「スプリング」を考える

日時：各回14:00-17:00

定員：各回50名、各回事前申込み制

作品制作チームによるギャラリートーク

作品制作に携わったメンバーで展示解説を行います。

ギャラリートーク参加の方は、展覧会チケット（当日有効）をご持参のうえ、2階展示室入口にお集まりください。

日時：2019年3月6日（水）16:00より

展覧会担当学芸員によるギャラリートーク

会期中の第2・第4金曜日14:00より担当学芸員による展示解説を行います。うち、3月22日は手話通訳つきで行います。展覧会チケット（当日有効）をご持参のうえ、2階展示室入口にお集まりください。

※学芸員のギャラリートークを除く全ての関連イベントに作家が来場する予定です。

※各プログラムの申込方法など詳細は当館ホームページでご確認ください。

※事業はやむを得ない事情で変更することがございます。あらかじめご了承ください。



〈ヒューマン・スプリング〉より《人間の春・太陽の下で》2019年 作家蔵 ©Lieko Shiga

開催概要

展覧会名	志賀理江子 ヒューマン・スプリング／ Shiga Lieko: Human Spring
会 期	2019年3月5日(火)－5月6日(月・振休)
会 場	東京都写真美術館 2階展示室 〒153-0062 東京都目黒区三田1-13-3 恵比寿ガーデンプレイス内 ホームページ www.topmuseum.jp 電話 03-3280-0099
主 催	東京都 東京都写真美術館／東京新聞
協 賛	株式会社ニコン／株式会社ニコンイメージングジャパン／凸版印刷株式会社
協 力	株式会社カラーサイエンスラボ／石堂建設株式会社
開館時間	10:00－18:00 (木・金は20:00まで) ※入館は閉館の30分前まで
休 館 日	毎週月曜日 (ただし4月29日[月・祝]および5月6日[月・振休]は開館)
観 覧 料	一般700(560)円／学生600(480)円／中高生・65歳以上500(400)円 ※小学生以下および都内在住・在学の中学生、障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料 ※第3水曜日は65歳以上無料

このリリースのお問い合わせ先

このリリースに掲載されている図版をデータのほか、志賀理江子による撮影の本展会場写真をご用意しております。掲載をご希望の際は下記広報担当までご連絡ください。

- * 図版をご掲載の際は、必ず作品キャプションおよびクレジットの表記をお願いいたします。
- * 図版のトリミングや文字掛け等の加工はできません。本展はインスタレーション展示を行うため、作品図版は作家によりトリミングされているものがあります。

〒153-0062 東京都目黒区三田 1-13-3 恵比寿ガーデンプレイス内 東京都写真美術館
1-13-3 Mita, Meguro-ku, 153-0062, Tokyo, Japan
Tel 03-3280-0034 Fax 03-3280-0033 www.topmuseum.jp
展覧会担当 丹羽晴美 h.niwa@topmuseum.jp 武内厚子 a.takeuchi@topmuseum.jp
広報担当 久代明子 平澤綾乃 press-info@topmuseum.jp